
神様はヘタレ

辺岡京彩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様はヘタレ

【Nコード】

N6942Y

【作者名】

辺岡京彩

【あらすじ】

とある少年シヨウは神様の子供だった！？普通の少年が繰り広げるときに戦い、恋愛、そして学園生活を描く話

変な訪問者

俺は普通で平凡な平和な日々を願う普通の高校生だしかし世の中には不思議な事が突拍子に起こる、俺はまさにその瞬間に直面している。

俺がいつもどうり家に帰るとリビングに人形らしきものがいた。

「何コイツ？」

思わず情けない声を上げてしまった、

そいつは姉貴が大事にしているアニメのキャラクターの人形で確か“バカチビ君”とか言うギャグ&ほのぼの系のアニメだ、受験ノイローゼ気味だった姉貴を救ったいわゆるヒーロなのだそうだ、それがあるうことか居間でくつろいでテレビを見ながら菓子を食っている、人形が動くなんて・・・あり得ない、取り敢えずこの小さな不法侵入者を追い出さなければならぬ、

<<<<「あのー」

<<<<「ん…なんだ愚民？」

<<<<人形に愚民扱いされたー！

<<<<啞然とする俺をよそに人形は米チップスタこ焼き味を食べていた、くそーあの野郎今日まで楽しみに取っておいたものをー

<<<<「あのー人形が動き出すのもどうかと思うのですが？」

<<<<

<<<<「あ？人形が動いては駄目なのか？」

<<<<いや動いちやダメだと突っ込みたかったがまた愚民と言われそうなので止めておこう。

<<<<「えつと・・・どちら様で？」

<<<<「大天使様」

<<<<「は？」

<<<<こっちは真面目なんだよ！あつ！その番組見たかったんだよな・・・じゃなくて！

「あのーもう一度繰り返していただけませんですか。」

<<<「バカだなあ。だから大天使って言ってるじゃん!」

突っ込みどころが多すぎて何て言っているのか判らない、

<<<「あのいいですか。世の中に天使なんかいないんですよ!」

<<<「何だとー」

<<<「じゃあ証明してみろよ!天使の力を!」

<<「仕方ない見せてやろう…」

<マジかよ、マジで天使の力を披露しちゃうのかよーゴクリ

<「でも今は乗り移ってる状況だから無理でーす」

<「何なんだよ!」

「だが人形に取り付く力は持っているんだぞ」

「ぐ…確かに…だ…だが!大天使サマサマがなぜそのような弱い力など?」

と皮肉をたっぷりつけて質問をする。

「ん?これはだなあ。いわゆる通信機見たいな感じで本来の姿またはその力のまま乗り移るとその辺が焼け野原に成るからだ!」

「なぜに焼けるのですか?」

「神々しすぎるからだな!」

「何こいつ!」

「えっ?大天使だけど?」

「うるせえ!」

「おやおや。ここを焼け野原にされてもいいのかい?」

「卑怯だぞ!」

「ハッハーどうだまいったか!」

「嫌な天使!」

「ホッホッホ」

「あのーそう言えば何で天使様々が家なんかに?」

「何か忘れてると思ったたらそれを言うのを忘れてた！」

「おいおい」

「実は、君は神の子でした祝！（笑）」

「冗談半分で言われた！」

「ハハハすまないねチミ」

「何それ？」

「何が？」

「その神の子でしたって言う事」

「まあまあその事はおいおいね」

何が　だふざけんな！

「まず状況を言え。」

俺はこの不可思議なことを知るためにドンとそいつの目の前に座った

「ん？ああ、まずね君はここで生まれただろう。」

「ああ。」

「君は実は神様の子供で最近主神の体調が優れないから家系図の中から次を選ぼうと思ったんだけど、それじゃあ不公平だと思って主は我々におっしゃった「次の主は家系図の中で一番強靱で頭が冴えるものにせよ！」と。」

「で、俺も候補に入れられたと。」

「その通りで。」

「マジか・・・」

俺はあまりの事の重大さがわからずソファーに寝転がった、

「つーことで、君の監視役に任命されたガブリエルです」

「じゃねえよ！何だよ監視役って！」

「つまり、キミがバトルしても取り敢えずすぐ死なないよう訓練す

るってとこかな。」

「マジで？」

「と言う事で今日から君の家に住むことになったんでよろ。」

「軽っ！っーか別に俺はいいけど姉貴が許すとは思えないな。」

「大丈夫、どうにかするから！」

その時、ガチャっという音が玄関から聞こえた。

変な訪問者（後書き）

読んでくれたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6942y/>

神様はヘタレ

2011年11月20日21時40分発行